『上海本』蒐録（2）

倉　橋　幸　彦

My Library on Shanghai in Japanese (2)

KURAHASHI Yukihiko

本書目は、曩に公にした「『上海本』蒐録（1）」（『大阪産業大学人間環境論集4』平成17年6月17日）の続編である。

ここに採録したものは，1921年から1926年つまり大正末年までを下限とする。

なお，Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ各項に附した番号は，「『上海本』蒐録（1）」を継ぐ通し番号である。

【1921-1926】

Ⅰ．上海本

<1921>

20．第九版　上海案内

島津長次郎

金風社（上海北四川路第2長安里2号）

大正10年2月5日第9版

四六版　456（328，58，36，34）頁

図版・表・地図　銀2弗20仙

［注1］：島津長次郎は「発行兼編輯人」。

［注2］：印刷所は蘆澤印刷所（崑山路1号）。「売捌所」は，上海の日本堂・申江堂，青島の博文堂と英文堂，大連の大阪屋書店と国内の森屋書店（長崎）と柳屋書店（大阪）。

［注3］：私蔵本奥付の定価の欄の上に「定價銀貮弗五拾錢」が添付されている。

［注4］：→第10版（「Ⅰ-31」）

◆［山崎馨一］序1頁／［佐原篤介］序2頁／自序2頁／目次4頁／口絵20頁｜挿図1枚｜附図4頁‖（総説）；山崎総領事を迎ふ／『鬼瓦と綽名を取つた』山崎総領事―石井大使の愛婿／上海の沿革／上海港／上海と揚子江／上海と棉花と黄道婆／上海と倭寇／上海小誌／外人の眼に映じたる上海／共同租界の沿革／人口／市街の状況と日本人の所在地／法租界／閘北／南市／浦東／呉淞／気候／行政／公共事業；上海義勇団／消防隊／音楽隊／学校及び教育機関／上海の基督教及び

平成17年11月8日
大阪産業大学　人間環境学部教授

青年会／博物院／図書館／公園及び運動場／水浴場／小菜場（市場）／電燈，電力及び瓦斯／水道（自来水）／陸上交通／水上交通／商工業／官公所其他／雑部；英字新聞／支那新聞／雑誌及発行所／上海の会社商店の多き所在地／旅館（ホテル，客桟）／支那旅館／上海の歳時記／劇場及活動写真／支那劇／古跡名所及び遊楽地／上海事情；支那料理／蟹-酔蟹／宴席／拳／老酒（紹興酒）／西瓜子―南瓜子／上海の花柳界／広東女郎／上海のカフエー／競馬／看板（招牌）／字号（屋号）／商標／銀楼／土産物／借家に就て（召租）／上海の賊の種類／拾二名の強盗団／悪車夫／支那棺と墓地／指算／増補321-328；上海証券物品交易所321-323／上海物価表324-328‖邦人案内57頁／上海各国人営業種別36頁／滬寧鉄路線旅行案内16頁／長江案内６頁／滬杭甬鉄路線旅行案内14頁

21. 上海渡航の栞

平野健（咲也）

大正10年４月20日訂正再版

三六版　88頁　図版・表・地図　40銭

［注１］:平野健（呉淞路263号）は「著作兼発行者」。

［注２］:印刷所は，蘆澤印刷所（崑山路0A1、2号）。「上海売捌所」は，日本堂書店。

［注３］：版；大正９年11月16日初版。

◆［午春（山崎馨一）］序１頁／［滬上槎客（佐原篤介］序２頁／例言２頁／目次１頁‖上海まで・上海市街概況・上海の気候と旅行者の服装・税関手続・上海の通貨・市中乗物｜挿図：〈咲也新案上海電車線路図〉１枚｜衛生と旅行者の注意事項及上海の衛生設備・旅館及下宿・上海の新聞（附）雑誌類・上海の名所｜附図：〈城内略図〉１頁｜上海と料理・上海案内記類・郵便と電信・上海居留民団及学校其他／航路案内；日本と上海｜附図：〈船室略図〉２頁｜大連青島と上海／蘇州，南京，杭州へ／長江案内；上海より漢口へ｜附図：〈船室略図〉２頁｜

＊「例言」:「日本，上海間を快速客船の往来するのも最早や単に時日の問題となりました。『一夜明ければ黄浦江』に到着する一般旅行者の利便の為め，最も簡明に土地の事情を記述し，之に適当なる注意を書き加えたるものも亦自然，必要とせらるゝに至つたのであります。在留，僅に**四年**の収穫を以て敢て此の要求に応ぜんとする，まことに難事ではありますが，先輩，知友の指導を得て，今，此の書を公にするを得たるは実に歓喜に堪えざる次第であります」。

［参考１］:「著者は多年郵船会社上海支店にあり船客係として日常新渡航者応接し客の問ふ所自分の注意せんとする要領を親切に記述せしもの新渡航者の好指針たり」（杉江房造編『改正増補**上海語独案内**』（「Ⅰ-27」）巻末「上海日本堂発行書目」）。

［参考２］:『中支』（上海／地誌）『華中』（一般案内６）

22. 東亜同文書院 創立二十週年根津院長還暦 祝賀紀念誌

清水董三

上海東亜同文書院同窓会

大正10年6月30日

菊版　344頁　図版・表　非売品

［注］：清水董三は「編輯兼発行人」。印刷所は，蘆澤印刷所（崑山路1－2号）。

◆［上海東亜同文書院教職員一同・同同窓会会員一同・同在学学生一同］序1頁／凡例1頁／目次3頁／口絵：写真12頁／書院院歌並に曲譜2頁／根津院長還暦祝賀の歌並に曲譜2頁‖東亜同文書院沿革｜挿入写真22頁〔☆2頁欠〕／根津院長略伝／日清貿易研究所｜挿入写真1頁／院長還暦祝賀会記事／二十週年紀念祝典記事／東京支部祝賀会記事／済南支部の祝賀会記事／同文会に対する謝電及答電／根津院長に呈する紀念品／［佐原篤介，青木喬，濱田甚四郎，川本静夫，阪本藤太郎，吉川清治，野島経太，井坂生，宇治田直義，柳瀬清，松浦嘉三郎，我妻芳治，成澤呑太，中村松三郎，小竹文夫］二十週年の感想｜附図：〈（現在）東亜同文書院略図〉1枚・〈（桂墅里）東亜同文書院平面図（明治四十一年五月十七日現在〉1枚

＊「凡例」：「東亜同文書院沿革は明治四十一年に**松岡恭一山口昇二**氏の編纂せられし沿革史を基とし之に其後の重要事項を加へたり但し兵燹其他の為め書院に記録欠如し其の精確と詳細とを期し難きを憾む。／書院沿革は大村〔☆欣一〕教授に院長略伝は山田［☆謙吉］教授清水〔☆董三〕教授に日清貿易研究所は青木〔☆喬〕教授に依り本稿を成すを得たり／表紙は清水教授の画と山田教授の書とにより成る」。

［参考］：『華中』（教育文化323）

23. 上海スケッチ

上原公六

光緑画会（上海閔行路69号両国館内）

大正10年11月20日

155×225　1弗

［注1］：上原公六は「著作兼発行者」。

［注2］：印刷所は，華洋印刷公司（天潼路113号）。

［注3］：架蔵本には，定価「＄0.50」の印あり。

◆目次［☆表紙裏］1頁‖スケッチ28葉：楊樹浦の朝・柳絮飛ぶ頃・龍華・マーケット・水牛・菖蒲剣・水施餓鬼・道普請・ガーデンブリッヂから・公園の露西亜人・女学生・落葉・茶館・苦力の昼休・チンチン［☆請，請］・焼きいも・夜の蘇州河・銃猟・看夜〔☆夜回り〕・薪を割る女・水木両作・サースリカー・下級船員・黄包車・交通巡査・骨董屋・纏足のアマ・墓

◎　上海百話

大正10年12月3日

◇3版（「Ⅰ-49」）奥付による。

<1922>

◎　上海繊維工業用語

大正11年9月30日

◇再版（「Ⅰ-38」）奥付による。

24. 支那開港場誌　第一巻　中部支那

一宮房治郎

東亜同文会調査編纂部（東京）

大正11年10月23日

菊版　1120頁　図版　5円

［注］：財団法人東亜同文会調査編纂部は，「著作

兼発行者」。一宮房治郎は，同編纂部「代表者」。

◆目次22頁‖上海 1 -793；概説／沿革／面積人口／気候／上海居留地／領事館／租界外上海／関税／通信機関／電気瓦斯水道／鉄道／海運業／電車／上海港／貿易／通貨／金融機関／為替／上海造幣廠／取引所／銀元及地金銀取引／度量衡／学校／天文台図書館博物館／商業会議所／会館公所／工業／倉庫業／物価／労働者／新聞雑誌／在留外国商｜蘇州／杭州／寧波／温州

［参考］：『中支』は（中支那一般／地誌・紀行，交通）に収めるが，上海関連箇所が全体の三分の二を占めるので「上海本」とした。
『米澤』：「上海のみに約八百頁を割き，沿革及び諸制度施設を詳細に記述す」。
『華中』（歴史地理96・商業貿易198）：「上海の沿革，諸制度及び施設を詳述す」。

25. 続上海百話

池田信雄（桃川）

日本堂（上海文路227号）

大正11年11月 5 日

四六版　366頁　銀 2 弗

［注 1］：著者池田桃川は，当時読売新聞特派員。
［注 2］：印刷所は，蘆澤印刷所。

◆自序 1 頁／目次 2 頁‖刺客の果て 1 -16／陶庵公と呉翁17-27／陳其美の横死29-35／青紅帮／澤田巡査85-93／新婚の驚ろき95-116／張孟介117-132／師娘／青蓮閣151-166／北四川路惨事167-172／誘拐／客死せる革命家／上海の支那娼婦205-291／或る洋妾／真珠を盗む279-291／虐殺された二人293-309／附録；長安悲曲〔☆「李娃伝」の意訳〕／普救寺の一夜〔☆「西廂記」一部の意訳〕

＊「自序」:「またこんな本を作らせられた。実際私として，一度新聞や雑誌に書きなぐつたくだらない古い記事を寄せ集めて出版することは，一生の中に又一つ愚著を増す訳だから，いやで仕方がないからやめようと思つたが，この本は上海邦人外史の一部でもあり，又中々面白い読物だから，是非に出せといふ本屋の言草だ。おだてられていゝ気になる私でもないが，どうせ愚著[☆『上海百話』（Ⅰ-49)］の続きだと毒血主義をきめ込み，ともかく黙つて目つぶつて本屋の言ひなりに任せることゝした〔☆全文〕」。

［参考 1］：「上海に於ける日支人各方面の趣味ある話を集めたもの社会研究の資料ともなり，外史ともなる肩の凝らぬ物語である」（杉江房造編『改正増補**上海語独案内**』（「Ⅰ-27」）巻末「上海日本堂発行書目」)。

［参考 2］：『米澤』〈上海百話〉：「同じ著者により「続上海百話」も出されてゐるが，この方は史料的価値に乏しい」とある。
『華中』（雑370）：「単なる興味本意の物語集で資料的価値に乏しい」。
『言語』

<1923>

26. 長崎と上海［日華聯絡記念］

大阪朝日新聞長崎販売所出版部（長崎）

大正12年 6 月20日

268×195　横仮綴　図版・地図　5 円

［注1］:「印刷兼発行者」は西山金三郎。印刷所は諫早印刷所。写真版製版所は安藤製版所（大阪）。

◆口絵：写真11頁‖［錦織幹（長崎市長）］日華連絡の使命1頁／［郭則済（中華民国駐長崎領事）中日親善之具体化〔☆華文〕1頁／［船津辰一郎（上海総領事）］長崎人士に与ふ〔☆テーブルスピーチ再録〕2頁／［伊藤米次郎（日本郵船会社長）］長崎県市民の後援を求む1頁／［永山時英（県立長崎図書館長）］日華の親交と長崎2頁／［武藤長藏（長崎高等商業学校教授）解説］旧き上海黄浦江岸の油絵2頁／［武藤長藏解説］錦絵「唐船入津の図」2頁／［古賀十二郎］文久二年徳川幕府が初て官有商船千歳丸を長崎より上海へ渡航せしめた英挙に就いて15頁／［本山桂川］唐船を迎へて3頁／［永井荷風］長崎の鐘と周囲〔☆「海岸の旅」より〕／上海に渡る旅客の為めに1頁／長崎名勝ところどころ／雲仙と小浜／上海一巡2頁／上海名所一巡3頁／長崎市街図／上海と邦人1頁／上海地図5枚

＊武藤長藏解説「旧き上海黄浦江岸の油絵」:「本誌口絵の一として掲ぐる上海黄浦江岸（The Bund）を描きたる旧き油絵の複写は故G.ランニング氏（G.Lanning）及び故S.クーリング氏（S.Couling）共編上海史（The History of Shanghai）第一冊（Part Ⅰ）の口絵（Frontispiece）として掲げられしものを縮写転載したものである。但し此上海黄浦江岸の諸官衙銀行会社等の名称説明は上海史に附記するもの以外に現在上海黄浦路にある銀行会社等の名称を予が鉛筆もて追加記入せしを其儘に写真に撮影したのであるから原書の通りではない事を断つて置かねばならぬ」。

＊「上海に渡る旅客の為めに緒言」:「日支連絡船は出島の岸壁から出帆します。／連絡船は快速力を以て，乗船した翌朝上海匯山碼頭に着きます」。

［参考1］:『華中』（歴史地理97）は，武藤長藏「旧き上海黄浦江岸の油絵解説」を採る。

［参考2］:「大正十一年三月発行我長崎高等商業学校研究館年報『商業と経済』第二冊所載故川島教授「開国以後最初の上海貿易」は当時我校学生たりし卒業生飯田信一君が故川島教授に提供したる『唐国渡海日録』其他合せて十三冊の史料に基き文久二年（西暦千八百六十二年）長崎より上海へ貿易船千歳丸（英人 Captain Richardson 所有 British barque 'Armistice' なる汽船を幕府が買収し船名を改めしもの）を幕府が派遣せし事に就て考証されたものである。／其後程もなく川島教授は俄に病を得て長崎聖福寺畔の寓居に永眠された。而して飯田信一君の厳君飯田七三郎氏の所就された前述の『**唐国渡海日録**』其他の史料は私より御願して我校に御寄贈を得た。而して飯田七三郎氏の厳君が松田屋伴吉氏で上海行に加はり且つ此『唐国渡海日録』其他の手録を遺した人である。この松田屋伴吉氏は明治十三年十月二十三日に永眠されたとの事であるから上海に行かれたのは三十一歳の時であつた。さて川島教授は右長崎の松田屋伴吉の『唐国渡海日録』以下の手録の外に我国の側では的確なる史料が見当らなかつた如く書いて居らるゝが其後古賀十二郎君が大正十二年六月大阪朝日

新聞長崎販売所出版部発行日華聯連絡記念『長崎と上海』に寄稿した「文久二年徳川幕府が初て官有商船千歳丸を長崎より上海へ渡航せしめた英挙に就いて」と題する考證文に於て又大正十二年五月八日以降の『長崎新聞』に掲載した「六十年前に於ける上海への出貿易」と題する同一種の文に於て述べた如く他に高杉晋作，中牟田倉之助等千歳丸にて上海に渡航した人人の書留めた記録又故田邉太一氏著『**幕末外交談**』中にも其記事の存する事は川島氏の気のつかざりし事と思はれれる。シカシ古賀君も川島君の考證を私より聴き其文を読みそれに刺激せられて右『大阪朝日新聞』長崎販売所発行の冊子及び『長崎新聞』に寄せたる考證文を草したものであるとすれば川島君の功も忘れてはならぬ（武藤長藏「文久二年の官船第一次上海派遣と文久三年―元治元年の第二次上海派遣に関する史料に就て」〔新村出『**遠西叢考**』楽浪書院，昭和10年２月15日，ｐ384，→「Ⅳ-32」〕。

27. 改正増補　上海語独案内

杉江房造

日本堂書店（上海文路227号）

大正12年７月１日13版

118×160　93頁　大洋30仙

［注１］：杉江房造は「編輯兼発行人」。

［注２］：印刷所は，蘆澤印刷所（海寧路14号）。

［注２］：版；明治37（1904）年10月20日初版／大正５年８月15日大訂正増補９版／大正７年７月１日10版／大正８年11月５日11版／大正11年11月10日12版

◆［一葉］自序２頁／凡例４頁／目次４頁‖単語之部；数目・時刻及歴日・天文及方向・度量衡・身体及人称・地名・穀類及鉱物・野菜と果物・魚類及飲食物・鳥獣類・昆虫及薬品病名・織物染料及衣服・食器日用品及家具・文房具及化粧品・一般名詞（なまへ）・商業用語・雑名詞働詞形容詞／問答之部17章

［参考１］：「第十一版上海語独案内／必要なる単語，簡易なる会話を十七章に分ち叮嚀に発音を附しあれば婦女小児と雖も活用し得る便利重宝の冊子なり」（井上進（紅梅）『**支那風俗巻上**』（大正10年７月20日再版）巻末「上海日本堂売発書目」）。

［参考２］：『華中』（言語337）：「日本堂／大正15（改正増補）」。

28. 上海概覧

上海日本商業会議所（上海）

大正12年11月

菊版　292頁　非売品

［注］：「奥付」なし。出版年月は，表紙記載の「大正十二年十一月発行」に従う。

◆緒言１頁／目次３頁‖上海小史／市区概況／揚子江と黄浦江／上海の気候／面積及人口／共同租界市政／佛租界の市政／租界外の政治／邦人居留民団／工部局警察／義勇隊／会審衙門／教育事業／衛生／博物館及図書館／公設市場／物価／消防／道路／家屋建築／交通機関／郵便，電信，電話／電気，電燈／水道／瓦斯／各国領事館／商業会議所／新聞，雑誌，書店／税関／上海港（碇泊区域，碼頭）／倉庫／水先案内／黄浦江改修問題／上海の労働者／貿易／出入船舶／上海を中心とする各航路／金融機関／通貨／交易所／興信所／紡績業／繰綿工場／絹綿布工場／タオル工場／製糸工場／絹糸紡績／莫大小工場／製粉工場／毛織物

工場／琺瑯鉄器工場／燐寸工場／石鹸蝋燭工場／製油工場／造船工場／鉄工場／皮革工場／硝子工場／煙草工場／其他の工場／デパートメント，ストウア／旅館

＊「緒言」：「一般商工業者の氏名，住所，内容其他に就きては別刊「上海内外商工案内」〔☆未見〕を参照せられ度し」。

［参考］：『中支』（上海／地誌）『米澤』，『華中』（一般案内７）『言語』；発行年月を1921年９月とする。

29. 上海港［調査資料第22篇］

河端勘左衛門

南満洲鉄道株式会社庶務部調査課（大連）

大正12年12月20日

138×188　192頁　図版・地図　頒布

［注］：印刷所は満洲日日新聞社（大連市東公園町21番地）。

◆［佐田弘治郎（満鉄庶務部調査課長）］序１頁／口絵４頁／目次３頁‖総説；上海港の位置／上海港港則／不開港地間を往来する船舶に関する規定／内地水路と蒸気船航行規則／続内地水路蒸気船航行規則／追加内地水路汽船航通規則／支那人が船舶を購入せんとする時の規定／出入船舶に対する施設／水先人組合／曳船会社／海運会社及代理店／上海港の内容；上海港内の区画／浮標／仮泊錨地／貨物の種類に依る錨地／呉淞より上海上流区に至る航程表／上海港内の桟橋江岸延長距離人種別／桟橋，碼頭及倉庫略図／桟橋繋船料／倉敷料／火災保険と倉庫／荷役作業の能率／船舶仲仕業者と専属会社／船渠及料金表／船渠略図／水上起重機／船渠又は桟橋据付起重機使用料金表／上海に於ける給水と料金

＊「序」：「本編は当社埠頭事務所上海支所職員河端勘左衛門氏の寄稿に係り上海港湾及び之が施設の現況並に上海港港則等を詳述して洩す所なし」。

［参考］：『中支』（上海／交通），『米澤』，『華中』（産業交通労働155），『言語』

〈1924〉

30. 日華遊覧案内　長崎と上海

米山秀麿

東洋之魁報社（長崎）

大正13年１月５日

三六版　287（268，19）頁　図版

金１円（銀１弗）

［注１］：「編纂印刷兼発行者」は，加藤卜堂。

［注２］：「発売元」は，宮本書店（長崎）。

［注３］：巻末広告104頁

◆［めづる］おことわり２頁／目次５頁‖総説１－４／長崎の部4-135／上海の部136-226；長崎から上海迄／地勢と沿革；挿図２頁／上海の案内；挿図６頁／天下の勝景蘇州に遊ぶ／古都南京を探る／浙江省の首都杭州へ／其の他の都市／上海の交通網／上海の花柳界消息／上海に遊ぶ人々の為めに／世界に贅を誇る支那料理に就いて／在上海邦人経営旅館及下宿業／上海に於ける公園／虹口邦人商店とミヤゲモノ；挿図２頁／九州温泉地案内；ミヤゲモノと丸福商店‖長崎及上海を中心とせる汽車汽船時間表19頁

＊「おことわり」:「〔☆大正12年〕五月五日より日華連絡船は出島埠頭に横着けせらるゝに至つたから，長崎案内は同所を起點として書き起すべきを原稿執筆中は，未だ出島岸壁完成せず，乗客は大浦海岸に昇降せしを以て其の儘に記せり」。

<1924>

◎　上海一覧

大正13年１月20日

◇再版（「Ⅰ-33」）奥付による。

31. 第十版　上海案内

島津長次郎

金風社（上海閔行路129号）

大正13年５月31日

四六版　590（464，82，44）頁

図版・表・地図　銀２弗50銭（金３円）

［注１］：島津長次郎は「発行兼編集人」。

［注２］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。上海の「売捌所」は，日本堂・申江堂・至誠堂・内山書店（北四川路）。

［注３］：奥付の発行所「**風金社**」は誤植。

［注４］：→第11版（「Ⅰ-58」）

◆［島津四十起］上海を歌へる我が詩〔☆「上海」〕の一節〔☆題箋裏〕／［山崎馨一（前総領事）］序１頁／［矢田七太郎（現総領事）］序１頁／［横竹平太郎（商務官）］序１頁／［滬上槎客］序１頁／自序１頁／目次４頁／口絵22頁｜挿図：〈現今の上海バンド〉１枚｜附図５頁‖（総説）；上海の沿革／上海港／上海と揚子江／上海と棉花と黄道婆／上海と倭寇／上海小誌／外人の見たる上海概覧／共同租界の沿革／人口／市街の概況／法租界／閘北／南市／浦東／呉淞／気候／衛生／行政／公共事業；上海義勇団／共同租界消防隊／佛租界消防隊／租界外消防隊／音楽隊／学校及教育機関／上海の基督教及び青年会／博物院／図書館／公園及び運動場／水浴場／小菜場（市場）／電燈，電力及び瓦斯／水道（自来水）／交通／商工業／工業／官公所，倶楽部，医院教会／雑部；英字新聞／支那新聞／英文雑誌／支那雑誌／旅館，外人旅館／支那旅館／カーフエー／劇場及活動写真／支那劇／名所古跡及遊楽地／上海事情；支那料理／蟹―酔蟹／宴席／拳／老酒（紹興酒）／西瓜子と南瓜子／良郷栗子と銀杏／上海の花柳界／競馬／麻雀／看板／字号（屋号）／商標／銀楼／土産物／借家に就て（召租）／家賃問題／上海語と日本語／煙草／阿片の話／老虎竈／上海の賊の種類／擦白党／ボーイ，阿媽，乳母／悪車夫／お祭／結婚制度／蓄妾／上海で名高い色々なもの／乞食／支那棺と墓地／上海の歳時記／指算／護照‖邦人案内81頁／上海邦人営業別38頁／上海租界道路名６頁

＊横竹平太郎「序」:「楊子江の大富源を背景とする大上海の事情を一小冊子に尽す事は固より難事にして其努力苦心は僅少なりとせず。島津四十起君の如き老上海にして但つ熱心なる研究家に非ずんば誰か能く之を為し得ん。／世の案内書なるもの一年出版せば十年更むる処なく為めに案内書としての寿命短きもの多きが如し。／島津君の「上海案内」は大正二年発行以来版を重ねる事茲に十回，内容年と共に補修せられ面

目回を追ふて又新，上海を知らんとするものゝ案内書として誠に好個のものと思考す」。

＊滬上槎客「序」：「友人島津四十起先生にして始めて支那在留邦人人名録の如き面倒なる編纂をなし得るのである。その四十起先生が又根気よく改版の度毎に全部改訂してしかも各其の専門家の校訂を求め出来る丈け最新の事実を彙集して，上海案内を編纂せられることは老生の感服する所である。／四十起先生の上海案内は今日に於ける邦文上海案内中最も精確で最新の記事に豊富であることを保証するものである」。

＊「自序」：「此編輯は大正十二年十二月の編輯であるが印刷所の遅滞は新しき記事をして半年遅れさした事を遺憾とする」。

［参考］：「世界の縮図と称せらるゝ複雑なる上海を出来る丈け詳細に案内せるもの改版毎に精密を増せり」（上海経済新報編輯局『揚子江案内**長江の旅**』（日本堂書店，大正14年11月25日，233頁，１円80銭）巻末「上海日本堂発行紀行案内」）。

32. 上海の為替及び金融

吉田政治

私刊

大正13年５月

菊版　267頁

［注１］：奥付なし。発行月日は「自序」の日付に従う。

［注２］：→「Ｉ-51」

◆自序２頁／目次６頁‖銀為替概論；銀為替の意義及び性質／銀の供給及び需要／世界の主なる銀市場／金銀比価の変動／上海の為替；為替売買の当事者／為替市場及び取引時間等／為替相場／為替相場変動の原因／為替予約／為替の売買方法／Cross 及び Change over／地金銀の売買／標金取引／結論／上海の通貨及び金融；通貨の種類／両と弗との関係並に幣制概観／手形及び小切手／支那銀行の組織及び業態／上海の金融市場／金利及其高低の原因

＊「自序」：「余は在支満七年此間に学得する所甚だ乏しかつたのを深く慚づるのであるが，曩に否み難い依頼を受けて某所で上海の為替及び金融を約六ヶ月に亘つて講演した時の原稿があるので鶏肋捨て難しの感もあり，又世上従来の有りふれた書物に比して多少特異の点もあるから，書籍として世に生れ出づべき意義と価値が無いでもなからうと考へたので，種々の点で殆ど全然新稿といふ程度迄訂正増補を加へて，版に上す事としたのである」。

33. 上海一覧

至誠堂編輯部

至誠堂新聞舗（上海閔行路85号）

大正13年６月１日再版

110×160　215頁　図版・表・地図

銀１弗20仙

→大正14年４月１日３版

［注１］：「発行者」は出光衞。

［注２］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。上海の「売捌所」は，日本堂・申江堂・金風社・内山書店。

［注３］：版；大正13年１月20日初版。

［注４］：３版も，内容・価格・装丁共に再版と異同なし。→４版「Ⅰ-65」

◆［矢田七太郎（上海総領事）］序２頁／［横竹平太郎（商務官）］序２頁／［希元（佐原篤介）］序２頁／目次６頁／口絵14頁｜〈上海略図〉１枚‖上海の概説／上海居留地と県城／浦東閘北及び南市呉淞／行政概観／公共事業；上海義勇団／日本義勇隊／消防隊／衛生／学校及教育機関／交通機関｜挿図：〈上海電車一等賃金表〉１枚・〈郵便料金表〉１枚｜／商工業／官公所其他／新聞雑誌／旅館ホテル客桟／上海居留民団／寺院及日本人墓地／上海見物／附録；南京案内／蘇州鎮江案内／杭州寧波案内｜汽車汽船時間表及賃金表７枚

＊希元「序」：「丁度今から一年前だつた，昔上海に始めて来た時に，知り合となつて，久しく往来して居た，英国人のフエリスと云ふ老人に，途中で出逢つた，此フエリスと云ふ老人は，昔上海の支那新聞の新聞報を経理し居た人である，出逢つたのは，豊陽館の角だつた，電車に乗るので，待ち合せて居た，イヤ，久しぶりですね，と云ふと，此の老人の云ふには，「ドウダイ，君も随分上海に久しく居るね，お互の知つて居た上海はもふなくなつた，昔あつた家も今はなくなり，昔家のなかつた所に見たこともない家が出来た，昔知つて居た人もダンダンと居なくなつて，知らない人が，多くなつたお互の上海はもふないのだね，」と一寸気の毒な感もした，が考へて見ると自分も矢張同様の感がある，よく人からあなたは上海通です，何でもおわかりでせふと，云はれることがある，が実際今の上海はわかりにくくなつた，今本書を得て，今の上海を案内して貰ふ様な気がするのである」。

［参考１］：「本書は上海の行政状態，支那風俗，花柳界，交通状態等苟しくも上海に関する事情の一切を簡明に説明し旅行者の東道とし，又上海在住者の指針たらむとして編纂したる唯一の書也写真版数十葉上海，南京，蘇州，杭州の精密なる地図を挿入し，巻末には上海を中心とし各地への汽車汽船時間表及運賃表を懇切に掲載しあり」（大川與朔『活用上海語』（「Ⅰ-36」）巻末広告，なお定価として「日本金一円五十仙」も記す）。

［参考２］：『米澤』：「**山崎九市**著編／**昭和元年**上海至誠堂発行／著者は上海信託会社の取締役，後月と号し，俳句を作る」。『華中』（一般案内８）：「**山崎九市**／至誠堂／大正13-昭和３／上述金風社〔☆島津長次郎『上海案内』〕及び日本堂発行の「上海案内」と大同小異である」。『言語』

34. 創作支那革命

池田信雄（桃川）

日本堂書店（上海文路227号）

大正13年６月19日

四六版　358頁　２円50銭　カバー

［注１］：「発行者」は杉江房造。

［注２］：印刷所は蘆澤印刷所。

◆長篇小説

［参考］：「支那革命党員の刺客を中心に社会の暗黒面たる売春窟を描いた濃艶極りなき著

者独特の情話長篇小説」（井上紅梅『**支那に浸る人**』日本堂書店，大正13年10月5日，巻末広告）。

35. 魔都

村松梢風

小西書店（東京）

大正13年7月1日

四六版　307頁　2円　函

［注］：「発行者」は小西栄三郎。

◆自序2頁／目次3頁‖魔都1-116／南京／西湖の旅／江南雑筆203-236／黄包車237-248／支那の政治家249-261／無憂園訪問記263-276〔☆無憂園主人は大谷光瑞，大谷光瑞「無憂園之記」（『**濯足堂漫筆**』民友社，大正14年7月4日，2円，函，所収）参照〕／フランス租界の家277-288／賭博館の娘

＊「自序」：「私が上海へ行つたのは，昨年**――九二三年の三月のなかば**であつた。そして私が上海を去つたのは，五月の末近い頃だつた，前後二ヶ月余の滞在であつた。／天国であると同時に，其処は地獄の都であつた。私は雀躍りして其の中へ飛び込んで行つた。然るに私は其処で図らずも一つの事件にぶつかつた。そして其の事件を背負つたまゝで日本へ還つて来たのだつた。私はそれを小説に書かうと考へてゐるがいまだに纏まらない。そこで本書のはうを先きに発表することにした。是れは主として上海及び其の他の地方の印象記である。が，単なる印象記ではない，同時に私の生活の記録である。寧ろ其のはうが主体であるとも言へる。謂はば，私の書かんとする小説の素材である」。

［参考］：『言語』；和田博文「村松梢風―「他者」と会うための旅」（p45-54）。

36. 活用上海語

大川與朔

至誠堂書店（上海閔行路85，86号）

大正13年7月25日

三六版　218頁　1弗

→昭和4年4月10日4版

→昭和9年7月25日5版

［注1］：「発行者」は出光衞。

［注2］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。

［注3］：4版は，内容・価格・装丁共に再版と異同なし。発行所至誠堂書店の住所「呉淞路64」。

なお，この版の復刻本あり。波多野太郎編・解題『中国語学資料叢刊第四篇　尺牘・方言研究篇　第三巻』（不二出版，1986年10月30日）所収（p281-340）。ただし，巻末の「校正ヲ終リテ」1頁は削除。　5版は新装版。ただし，内容は巻末の「校正ヲ終リテ」を省いた以外は，初版・4版と異同なし。定価「銀50仙」。発行所至誠堂書店の住所「呉淞路461-463」。

◆［問答］序1頁〔☆華文〕／［至誠堂］はしがき2頁／凡例5頁／目次5頁‖第一篇　通俗用語；名詞／数詞／代名詞／副詞／接続詞／形容詞／動詞／疑問詞／簡句／田舎ニ用フル方言簡句／文例／第二篇　通俗用語問答；問答／通俗用語問答解釈／第三篇　商業用語；彙語／商業用簡句及語例／商業用語問答／商業用語問答解釈｜［大川］校正ヲ終リテ1頁

＊「凡例」:「本書ハ三個ノ目的ヲ果スベキ使命ヲ以テ編輯シタリ。之レ全巻ヲ三篇ニ区分シタル所以ニシテ，初心ノ士ニハ正確ナル用語概念ヲ徹底セシメ，将又，之レガ把促ノ容易ナラシムルヤウ第一篇ニ研究，詳述セリ。／已ニ用語心得ノ有ル士ニ対シテハ所謂日本人支那語ニ非ズシテ，支那人式支那語，換言セバ，垢抜ケシタル用語ノ研究ニ資ス可ク第二篇ヲ案出シタル所以ナリ。第三篇ハ商取引ニ必須ナル商業用語ヲ遍ク蒐集シテ，斯界ニ活動セントスル士ノ為ニ特ニ便宜ヲ計リタル次第ナリ」。

［参考］:『華中』（言語339）

37. 上海に於ける労働者［支那貿易叢書第二輯］

大阪市役所商工課（大阪）

大正13年 7 月31日

菊版　34頁　非売品

［注］:大阪市役所商工課は発行所。

◆目次 3 頁‖労働者の種類／幇の種類／労働の方法／労働時間／労働者の年齢／労銀／労働者の生活／労働能率／上海の労働者組合／近時の労働運動

［参考］:『中支』（上海／社会・統計）『華中』（産業交通労働156）

38. 上海繊維工業用語

宇高　寧

藤井印刷所（上海呉淞路345号）

大正13年 9 月30日再版

菊半載版　259頁　銀大洋 1 弗50仙

［注 1］:「著者」宇高寧の住所は，「上海檳榔路80号」。

［注 2］:「販売所」は，日本堂・至誠堂・内山書店。

［注 3］:版；大正11年 9 月30日初版

◆［岩尾徳太郎（東洋紡績株式会社常務取締役）］序 2 頁／［大隈信常（貴族院議員，侯爵）］序 2 頁／［大西喜一（内外綿会社取締役技師長）］序 2 頁／［田邉輝男（上海商業会議所会頭，日華紡績株式会社常務取締役）］序 1 頁／［武藤山治（鐘ヶ淵紡績会社取締役社長）］序 2 頁／［船津辰一郎（上海総領事）］序 2 頁／［青柳篤恒（早稲田大学教授）］序 2 頁／［坂田幹太（同興紡績会社監査役，大阪合同紡績会社取締役）］序 1 頁／［菊池恭三（大日本紡績会社会長）］序 1 頁／はしがき 2 頁；再版訂正増補／目次 4 頁‖短語編；各建物の名勝／諸器械の名称／工場用具及用品の名称／諸用品の名称／事務用文具の名称／職掌／人称及人称代名詞／地理／時間／動詞／動詞応用之部／形容詞／副詞／接続詞／数字及単位／工銀に就て／会話編;工場内之部／大工，竹屋，鍼力屋，ローラー／混綿，打綿，梳綿／練篠，粗紡／精紡／綛場，丸場／一般人事／職工係／綿，綿布，糸売買部／用度会話応用之部／工場職工段取に就て／人力車／五十音／建築用語／建築用語応用之部／上海語訳之部175-259

＊大隈信常「序」:「宇高君は曾て読売新聞記者当時から父重信侯にも接近されてゐて，約五年間殆んど毎日来て秘書の仕事をして貰つてゐた関係から其性格等を能く知ってゐるが特に篤学の士である，支那に在る事四年而も勤務時間長き紡績会社にあり乍ら職務の傍ら此研究を続けられたことは

驚嘆に価する」。

＊大西喜一「序」:「宇高君は中学入学前既に陸軍省雇として日露役に従軍して満洲地方に三年過され又兵役中も満洲鉄嶺に駐剳してゐた，特に早稲田大学在学中は北京語を修められたと云ふ支那に関係深き人である。／当会社上海支店在勤中も支那人職工の所謂見回格に日本語を教授された事があり，既に紗廠用語を編された人である，私は約三年間机を並べてゐた関係で一番よく同君を知つてゐるのであるが，同君の上海語は耳よりも眼から入つた方がより多かつたと思はるゝのである」。

＊青柳篤恒「序」:「僕は，宇高寧君には曾て早稲田大学在学中北京語を教授したものである」。

＊坂田幹太「序」:「私が内務省に居た時宇高君は報知新聞記者として内務省を担当されてゐた其後偶然にも君が郷里愛媛に県宰として赴任し後復た官を止めて会社こそ異なつてゐるが君と同じ紡績に従事すると云ふ妙な因縁を続けてゐる」。

＊「はしがき」:「尚ほ読み方に假名を附けないのは五十音に適合せぬ発音があるのでそれが却つて初学者を誤らす懼れがある為である，会話の部は直接に訳を附けないのは修学者が之を当てにすると却つて脳裏に撤しないことになるから訳は態と最尾に附することにした。／再版訂正増補は其後更に種々研究した結果，第一版よりも訳と意味がしつくり合つて来たことと今度は誤字誤植の訂正も自分で見て理想的にやつた積りです，増補は機械及要〔★用〕品其他建築語の應用等です」。

［参考］:「本書は著者が紡績界にある時齎したテクニツクの産物である支那には文法が無いが著者は之れを文法的に区別を試みてゐるのも亦本書の特長である」（杉江房造『改正増補**上海語独案内**』（「Ⅰ-27」）巻末「上海日本堂発行書目」）。

39. 上海事情［在上海帝国総領事館調査］

外務省通商局（東京）

大正13年10月

四六倍版　234頁

［注1］:奥付なし。

［注2］:架蔵本は硬装製本されている。

［注3］:「目次」と「緒言」標題に「在上海帝国総領事館管轄区域内事情」とある。

◆口絵3頁／目次5頁／緒言〔☆「大正十二年二月十一日右上海矢田総領事報告」とのことわりあり〕‖地勢，面積人口及職業ノ大要／管内ノ特長／衣食住ノ状態／気候及衛生／貿易／居留地内ニ於ケル市場，取引所，商人，商品，取引習慣／工業及鉱業／農業，林業及牧畜／漁業及猟業／上海度量衡，通貨及金融／交通及通信／居留地／公私ノ施設／土地家屋ノ売買及賃貸価格／労働者賃金及労働界状況／物価ノ趨勢及食糧品諸雑貨ノ相場／主要都会誌；上海・呉淞・寧波／本邦人ノ着眼スヘキ事情

＊「緒言」:「在上海帝国総領事館管轄区域ハ江蘇，浙江二省ニ跨リ地味肥沃資源豊富ナル中部支那ノ東海岸地帯ヲ占ム而シテ支那第一ノ貿易港ニシテ揚子江ノ咽喉ヲ扼

シ対外交通ノ連絡地点タルノミナラス支那ノ富源ト目セラルル揚子江一帯ノ地ヲ背景トシテ内外通商交通ノ中枢地点タル上海ヲ包有シ加フルニ呉淞，寧波及温州ノ三開港場アリ其地域タルヤ何レモ邦人ノ対支発展上実ニ重要ナル関係ヲ有スルモノトス」。

［参考］：『中支』（上海／地誌）；「大正12年」とする。『米澤』『華中』（商業貿易203）：「外務省通商局附印発行で，巻頭の写真六枚は十二年頃の上海を窺ふに足る佳きものである」。なお，『華中』は，外務省通商局「大正10」年刊行の同名『上海事情』（未見）も採録。『言語』

40. 第一回　上海経済年鑑

上海毎日新聞社

上海毎日新聞社（上海湯恩路第２号）

大正13年12月28日

菊版　405頁　表　銀４円　函

［注１］：上海毎日新聞社主深町作次が，「著作兼発行者」。

［注２］：上海の「大売捌所」は，至誠堂。

［注３］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。

［注４］：405頁すべて「統計の彙集」。

◆第一回上海経済年鑑発刊の辞２頁／目次12頁‖財政と借款／貿易／産業／銀行及金融／交通及運輸／商品相場及証券相場／土地，人口及社会／気象及地文

＊「発刊の辞」：「吾社が曩に本年鑑の企図を発表するや予約申込は忽ち日支両国各地より殺到して，支那経済統計の容易に得られざるに多くの悩みを抱ける諸子が恰かも旱天に雲霓を望み得たる観を呈した。吾社は本年三月之を完成して此の絶大なる歓迎に酬んとしたのであるが中途不幸にして編輯員の交迭，主任の病気帰国等傍生的障碍に禍せられて意の如く進渉するを得なかつた。／本年鑑は吾社の第一回の試みであると同時に斯くの如き経済統計の彙集を江湖に提供するのは支那出版界として誠とに驚異的劃紀的記録である。唯だ資料の蒐集，材料の取捨等に於て遺憾の点少なからず殊に貿易，商品相場，銀行及金融の三編に於て特に然るを覚ゆるのであるが，此等不備の諸点は次年度に於て一大改革を施し以て本年鑑を完璧に近く価値づけて江湖の期待に副はん事を期してゐる」。

［参考１］：『米澤』

『華中』（金融経済248）：「上海に限らず広く統計資料を収載してゐる」。

［参考２］：「大正七年には深町作次が「上海経済新報」を創刊，後これを「上海毎日新聞」に改めた」（米澤秀夫「滬上雑記」『**上海史話**』畝傍書房，昭和17年７月10日，p206）。

<1925>

◎　上海に於ける　外国為替及金融

大正14年３月１日

◇５版（「Ⅰ-51」）奥付による。

◎　上海一覧

大正14年４月１日３版（→「Ⅰ-33」）

41. 支那在留邦人人名録

島津長次郎

金風社（上海北四川路豊楽里1037号）

大正14年５月31日第16版

菊版　図版　銀５弗50仙（金７円）

［注１］：島津長次郎は「発行兼編輯人」。

［注２］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。

［注３］：上海の「売捌所」は，日本堂・至誠堂・内山書店。

［注４］：版；大正２年１月10日初版／同年11月20日第２版／大正３年４月10日第３版／大正４年１月１日第４版／同年９月25日第５版／大正５年５月25日第６版／大正６年３月30日第７版／同年12月10日第８版／大正７年８月10日第９版／大正８年３月28日第10版／大正９年６月26日第11版／大正10年７月22日第12版／大正11年８月20日第13版／大正12年７月26日第14版／大正13年８月15日第15版

◆目次１頁／口絵18頁／［矢田七太郎（在上海総領事）］十五週年に寄す１頁／［佐原篤介］十五週年に寄す１頁／十五週年を祝す１頁／［加藤日吉（上海駐在商務官代理副商務官）］紹介１頁‖上海在留邦人人名録210頁；上海在留邦人人名索引161-210｜上海邦人営業別〔☆索引〕19頁／漢口・北京・天津・青島・膠済鉄路沿線・済南・香港・広東在留邦人人名録｜附録；支那文電報対照数字表・金銀換算表

＊加藤日吉「紹介」：「上海金風社ハ四十起島津長次郎君ノ経営スル所ニ御座候／島津君ハ上海ニ住スル多年夙ニ支那事情研究ニ趣味ヲ有セラレ大正二年初テ上海案内ノ一書〔☆「Ｉ-16」〕ヲ著シ続イテ支那在留邦人人名録ヲ編セラレ共ニ支那或ハ上海事情研究者ニ好個ノ参考書タルノミナラズ対支那商工当業者ノ応ニ一本ヲ備フ可キ要書タル事ハ前者ガ最近第十版ヲ後者ガ第十五版〔☆大正13年８月15日〕ヲ出版セラレ候事実ニ徴シテモ察セラル可クト存候」。

［参考］：『華中』（歴史地理84）：「金風社／大正２（初）-昭和17（32版）／初版以来大体毎年一冊宛刊行されたが，昭和十二年度分は日支事変のため欠き，昭和十三年，十四年の邦人大膨張に当つて夫々臨時版が出されて居る。昭和十六年第卅一版中支版の附録に初版が再録されてゐる」。

42. 排外暴動の上海市場に及ぼせる影響

大阪市役所産業部（大阪）

大正14年７月25日

菊版　37頁　非売品

［注］：奥付上の「当部刊行書目録」の<支那貿易目録に関するもの>に，『上海に於ける労働者』〔☆「Ｉ-37」〕や『蘇浙開戦と上海商品状況』〔☆未見〕が記載されている。

◆緒言／金融市場に及ぼせる影響／三取引市場に及ぼせる影響／海運界に及ぼせる影響／輸出貿易に及ぼせる影響／輸入貿易に及ぼせる影響／外人企業に及ぼせる影響

［参考］：『中支』（上海／産業）
『華中』（金融経済251）

43. 五卅事件会審衙門記録（上巻）

毛受駒次郎

水尾印刷所（上海鴨緑路20号）

大正14年９月10日

178×250　100頁　大洋１弗20仙

［注１］：訳者（「編輯者」）毛受駒次郎の住所は，「呉淞路義豊里C163号」。
［注２］：「発行兼印刷者」は水尾愛二。
［注３］:「総発売店」は日本堂書店（文路K227号。
［注４］：→「Ｉ-45」
◆（序）１頁‖会審衙門速記録対訳

＊「序」:「此の会審衙門速記録抜粋は，七月三日より字林西報に連載したるものにして，必ず南京路事件交渉の最も有力なる材料となるものならんと思ひ茲に和訳し在留同胞諸君の参考に供せんとす。〔☆「序」の裏頁に，「訳者病臥中にて支那人人名の支那字を調ぶること能はず，止むを得ず片仮（名）を用ゐたり」とのことわりあり〕」。

44. 上海に於ける動乱直後の印象

森　盛一郎

東京商業会議所（東京）
大正14年９月12日
菊版仮綴　44頁
［注１］：奥付なし。発行年月日は，巻末に記された日付「【十四，九，十二】」に従う。
［注２］：森盛一郎は，「支那動乱の実情調査並に慰問東京商業会議所代表，常議員」。
◆（序）１頁‖親日感情の旺盛；支那動乱と日本／出発当初の予想／吾等一行の使命／予想以上の快事／親日気分横溢／親日傾向の由来；各国利害関係の厚薄／排外運動の推移／親日傾向の一因＝邦人の冷静隠忍／親日原因の第二＝当局の方針適切／親日原因の第三＝民国識者の自覚／親日原因の第四＝反英熱の反動／工部局主脳部の独占／工部局施設と人種的差別待遇／英国の旧式政治／因縁遠く且深し／動乱勃発の真因；所謂五，三十事件／紡績罷業の真相／民国労働者の待遇／排外運動の根源／赤化運動と民国／共産劇の舞台／回国の所感；到着時の陰惨なる光景／感激裏の回国歓送／黒煙を吐く紡績工場の煙突

＊「序」:「茲に掲ぐるは，極めて短時日の上海訪問に際し，匆忙の間余の直覚したる感想を，帰来匆々洗練するの暇もなく，卒直に発表報告したる演説筆記の要領なり」。
［参考］:『言語』：出版月を「九月」とする。

45. 五卅事件会審衙門記録（中巻）

毛受駒次郎

水尾印刷所（上海鴨緑路20号）
大正14年10月１日
178×250　107頁　大洋１弗20仙
［注］:「［水尾印刷所］謹告」１頁挿入：「曩に本書は三百頁未満にて完結する予定なりしも毛受先生の厳密精細なる翻訳は終に四百余頁となる見込にして従て下巻は二百余頁ものとし，附するに当時の関係者諸氏の写真，問題の焦点となれる南京路老閘警察署前群集退散刹那の死傷者の転倒せる位置を確認し得る稀有の写真等数葉を纏めて「下巻定価銀二弗」として本月下旬発行〔☆未見〕候間予めご承知置願上候」。
◆（刑事被告人名対訳２頁）‖会審衙門速記録対訳

＊「刑事被告人名対訳」:「五卅事件に関する支那人名の姓名を片仮名を以て表はすは推敲の労を惜むに似たれども病中なればまた如何ともし難く止むを得ず其儘にして上

巻〔☆「Ⅰ-43」〕を出版し尚ほ中巻の稿を続け其半はに達せし頃天洋渡邊氏より其姓名の支那文字を寄与せられたり依つて上巻とやや重複する嫌ひあれども渡邊氏の厚意を深く感謝して再び下に掲出す」。

46. 上海事件に関する報告
［満鉄調査資料第四十九編］

高久　肇

南満洲鉄道株式会社（大連）

大正14年10月25日

菊版　291（196，95）頁

［注１］：編纂者高久肇は，南満洲鉄道上海事務所員兼商工課上海駐在員。

［注２］：奥付では，「編輯兼発行人」として佐田弘次郎（南満洲鉄道株式会社庶務部調査課）の名のみ記す。

［注３］：印刷所は，合資会社日清印刷所（大連市西公園町49番地）。

◆凡例１頁／目次５頁‖緒言／支那の排外思想並に運動の考察；排外思想の根底／排外運動の考察／上海事件の誘因となれる紡績罷業（二月事件）；上海紡績罷業の経過と其真相／罷業原因の考察／罷業の被害と其失敗の原因／上海事件；罷業再燃より排外運動へ／排外並に罷業運動の経過／排外並に罷業団体及び資金／排外並に罷業運動に対する取締／経済絶交運動と其影響；排外方策としての経済絶交／罷市罷業の経済的影響／上海事件と支那対列国交渉経過；上海領事団対支那官憲／北京政府の対外交渉顛末／上海会商／上海会商より北京交渉へ／工部局の実権問題／結言｜附録95頁；上海事件に関する工部局ステートメント／上海事件に関する支那側宣言及通電／上海事件に関する外国側輿論／上海事件に関する支那側輿論／上海事件日誌／上海事件に関する支那側宣伝文及伝単／上海事件と支那側死傷者

＊「凡例」：「本稿は主として大正十四年五月以降七月迄に於ける所謂上海事件に就て纏めたものであるが，編輯方針として地域を上海一地に限定し青島，漢口，広東，北京，天津，奉天等の各地に於けるものは之を除いた。蓋し是れ上海に在勤せる筆者としては，上海に於ける事実の余りに闡明的確なりしに比し他地の之に伴はざるものありしに依るものにて，一に記述事項の正確さを重んじた結果に外ならない。／参考資料としては上海発行の内外新聞紙を主とし商務官，工部局等諸機関の発表に係るものを参照した」。

［参考］：『華中』（事変関係349）：「五卅事件を原因とする北支及び中支に於ける排日行為」。

『言語』；発行所を「**南満洲鉄道上海事務所**」とする。

47. 上海之罷業罷市　—1925—

神戸商業会議所（神戸）

大正14年

菊版　148頁

［注１］：奥付なし。発行月は，９月あるいは10月と予想されるが，とりあえず1925年の最後に採録。

［注２］：表紙に「マル秘」印刷。

◆［日本全国商業会議所連合会上海視察団］

声明１頁／［福本〔☆義亮〕書記長］附言１頁／

鹿島〔☆房次郎〕団長の挨拶 3 頁／目次 3 頁‖上海総罷業の一般的経過／豊田紡績外五会社罷業経過概況／紡績罷業の原因／罷業の総解決／上海に於ける労銀調査／上海に於ける華工人（職工）生活費調査／上海に於ける一般労銀比較表／上海に於ける物価一覧（大正十三年度と同十四年度）／罷工歌と罷業勧誘状／上海総工会の一大勢力／職工の知識程度／上海罷市の一般的経過／工部局の四提案に対する上海市民の声／誠言とは何物か／上海事件と共産主義／支那学生は何故民衆を率ゆるの力ありや／排外運動に対する英米佛の態度／租界内に於ける行政組織の概要／支那主権内に於ける行政組織の概要／上海に於ける外国人の在留数／附録；［椿生］雑録（一）／商議代表委員一行滞滬日程／日本商業会議所代表委員一行氏名［鹿島房治郎（団長）・鶴谷忠五郎（調査部長／神戸商業会議所常議員）・福本義亮（団付秘書）・安宅彌吉（副団長／大阪商業会議所副会頭）・二川仁三郎(同議員)・高柳松一郎(同書記長／調査部長)・森盛一郎（副団長／東京商業会議所常議員）・長谷川鎧（同書記）・下出義雄（名古屋商業会議所議員）・磯部清（同書記）・平井栄一（同嘱託）・青木嗣夫（横浜商業会議所議員）・山崎吾一（広島商業会議所議員）・坪川信一（福井商業会議所書記長）・西牟田清蔵（全国商業会議所連合会書記)］／蒐集調査書類目録報告／雑録（二）／［横竹商務官調査］支那に於ける紡績業と労働賃銀

＊福本義亮「附言」:「五卅事変以来日支国交難渋を来たし，憂慮に堪へない吾が会議所は直ちに在滬同胞及び上海日本商業会議所に慰問の電報を発し，一面吾が政府に臨機の処置を迫つた，続いて日本商業代表委員団を作つて愈々渡滬〔☆ 8 月15日～25日〕するの段取りを付けた，鹿島会頭，鶴谷〔☆忠五郎〕常議員及び小職も参加することを役員会は喜んで協賛した」。

<1926>

48. 最近上海に於ける労働運動風潮
［満鉄調査資料第五十二編］

高久　肇

南満洲鉄道株式会社（大連）

大正15年 3 月15日

菊版　153頁　表

［注 1］：編纂者高久肇は，南満洲鉄道上海事務所員兼商工課上海駐在員。

［注 2］：奥付では，「編輯兼発行人」として佐田弘次郎（南満洲鉄道株式会社庶務部調査課）の名のみ記す。

［注 3］：印刷所は，東亜印刷株式会社大連支店日（大連市近江町91番地)。

◆凡例 1 頁／目次 2 頁‖支那労働運動の大勢／上海に於ける初期の労働運動／最近上海に於ける労働運動；最近労働風潮の性質／上海に於ける最近罷業の趨勢／労働罷業条件の解剖；罷業要求条件／罷業解決条件／労資両方面より観たる解決条件の考察／上海に於ける労働団体；上海総工会／上海工団聯合会／其他の労働団体／上海企業界と労働者；上海の労働者状況／上海労働者の生活と労銀／上海鐘紡工場

の労働者福利増進施設と其効果／支那労働運動の将来／附録；上海に於ける労働罷業要求条件／上海に於ける労働罷業解決条件

＊「凡例」：「支那労働問題を論議せるもの載籍極めて多いが，本稿は上海の境地に臨める編者が其見聞せる実状を基礎として十四年末迄の運動を調査したものであるから，斯問題研究者にとりて何等かの参考ともならば本懐である」。

［参考］：『華中』（産業交通労働161）

49. 上海百話

池田信雄（桃川）

日本堂（上海文路227号）

大正15年4月8日3版

四六版　381頁　2円

［注1］：発行者は杉江房造。

［注2］：印刷所は蘆澤印刷所。

［注3］：版；大正10年12月3日初版／大正12年9月10日訂正再版

◆自序1頁／目次8頁‖黎明時代1-32；明治十四五年頃迄／月費三元の学生／東洋茶館／東洋車の歴史／雑貨取引状態／精綺水の岸田吟香／護衛附の写真師／日清戦争／三十年間の下宿稼業／社会六題33-79；支那の労働運動／支那女学生気質／貧民街の生活／支那の模範林／江湾の競馬／浙江附近の海賊／書道画道／街頭見聞97-114；借家賃と税と街路名／家族関係名称／支那店頭の看板／六弗114／呉山越水／狎烟二話；名變童王四寶158-162／嬌児菊妹162-166／避暑遊獵；邦人の墓を守りて二十年246／閑人閑談247-283；邦人墓地物語／両性／革命情話／工部局監獄と囚人／広東さん284／附録：文藻余談／ある時代の記録；この感興で318-353／支那現代の小説（上海を中心とする）355-359／青木中将と仕立屋359-360／江南の文教に就て

＊「自序」：「この物語の大部分は，嘗て各種の新聞や雑誌に書いたものであつて。永らく机の下にかくれてゐたものを日本堂杉江主人のお話に由り，茲に一冊に纏めることゝした。／尚黎明時代の一部に，当時の都合で，井上紅梅さんの執筆に係はる分もある」。

［参考1］：「上海に於ける日支人の生活各方面の社会事相及び附近の山水紀勝を著者一流の軽快なる筆致を以て記述し巻末に江南文教の評論一篇を添へたり。読者は此書に由り日本人の発展史，支那社会の真相等を絶大なる興味裡に自ら会得するを得べし。興趣ある徒然の読物たると共に，平易なる一案内書たり」（杉江房造『改正増補上海語独案内』（「Ⅰ-27」）巻末「上海日本堂発行書目」）。

［参考2］：『中支』（上海／社会・統計）『米澤』：「大正十年上海日本堂発行。明治，大正年間の上海における日支人の生活を叙した雑話集」。『華中』（歴史地理93）：「資料としては厳密に吟味して利用せねばならない程興味本位的に書かれてゐる」。『言語』

［参考3］：和田博文「池田桃川『上海百話』（『言語』p147）：「中国の相公（男色を売る少年）や芸妓の実態と，幕末～明治の上海での日本人の動静が，「社会六題」「書道画道」「街頭見聞」「呉山越水」などのテーマの話と併せて，描き出されたのであ

る。もっとも一八八二年頃までの上海在留邦人は多くて一〇〇人まで。数千の単位になったのは，日清戦争後のことだという。／黎明期の著名人の一人は岸田吟香。蘭学を学んだ彼は，ヘボン博士を助け，日本最初の和英辞書を脱稿した。日本にはアルファベットの活字がないため上海に渡り，一八六七年に当地で，『和英語林集成』を刊行している。岸田を最も有名にしたのは眼薬精綺水だろうが，上海で彼は岸田楽善堂を開いただけでなく，**一九〇〇年には東亜同文書院を設立した**［★ママ］」。

50. 上海共同租界法規全書

山崎九市

日本堂書店（上海文路27号）

大正15年４月24日

菊版　491（424，58，９）頁　５円

［注１］：山崎九市は編訳者。

［注２］：発行者は杉江房造。

［注３］：印刷所は蘆澤印刷所（海寧路14号）。

◆［矢田七太郎（上海総領事）］序１頁／［櫻木俊一（上海工部局参事会員）］２頁／はしがき４頁／目次８頁‖根本法規；上海共同租界土地章程・附則／一般法規及ビ布告；公務ニ関スル規定／公安ニ関スル規定／公共設備ニ関スル規定／衛生ニ関スル規定／交通ニ関スル規定／鑑札条件；娯楽機関／旅館／食物／酒類／乗物／船舶／雑／特別官衙規則；工部局電気課規則／上海義勇団規則／上海領事団裁判所手続法／上海共同租界会審衙門｜附録58頁；上海帝国総領事館館令及ビ法規／上海居留民団法規｜索引９頁

＊「はしがき」：「上海共同租界法規ハ悉ク英文ニテ制定セラレ居リ，未ダ邦文其他ニ訳出セラレタルモノヲ入手スル能ハザルニヨリ，本書ハ左記〔☆下記〕諸書中ヨリ現在効力アリ且ツ必要ナルモノヲ撰集シテ編訳シタモノデアル。

Handbook of Local Regulation.Issued by order of the Municipal Council.

By-laws for the Foreign Settlement of Shanghai.

Handbook of Licence Conditions. Issuued by order of the Municipal Council.

Shanghai, Its Mixed Court and Council. by A. M. Kotenev.

Regulations Governing Installation of Lighting, Heating and Power with Energy.

Regulations for the Shanghai Volunteer Corps.

The Municipal.Gazette.1924,1925 and 1926（Jan. Feb. and Mar.）

Report for the year 1923-Shanghai Muncipal Council.

此外ニ建築規則即チ Rules with respect to New Foreign Building in Shanghaiヲモ訳載スル筈デアツタガ，遂ニ之ヲ果スノ暇ヲ得ナカツタコトヲ遺憾トスル。尚ホ上海在住邦人ノ便宜ニ共スル為メ附録トシテ採録シタル外務省令中ノ，上海ニ関係アルモノ，上海総領事館々令及ビ上海居留民団法規ハ，ソレゾレ総領事館及ビ居留民団ニ就キテ写シ取ツタモノデアル」。

［参考１］：「菊版　**四百八十**頁／上海の組織，施設，

行政，警察，司法，防備，公益事業其他の諸制度に関する法規一切を蒐集編訳したる本書は上海在住者の宝典たるは勿論，上海を知らんとする者，治外法権研究者，殖民制策研究者及び都市経営者等にとりて権威ある好資料なり」（池田桃川『上海百話』（「Ⅰ-49」）巻末広告）。

［参考２］：『中支』（上海／政治）；「山崎**九郎**譯」は誤植。

『米澤』：「大正**五**年上海発行」は誤記。

『華中』（法制租界問題287）

51．上海に於ける　外国為替及金融

吉田政治

大阪屋号書店（東京）

大正15年５月28日５版

四六版　401（＋45）頁　２円80銭

［注］：版；大正14年３月１日初版

◆凡例３頁／自序４頁／目録９頁‖緒論／上海の外国為替；為替売買の当事者／為替市場及び取引時間等／為替相場／為替相場変動の原因／為替予約／為替の売買方法／Cross 及び Change overとの関係／地金銀の売買／標金と取引／結論／上海の通貨及び金融；通貨の種類／両と弗との関係並に幣制概観／手形及び小切手／支那銀行の組織及び業態／上海の金融市場／金利及其高低の原因／結論（上海金融市場の特質）／世界の銀需給及び取引事情；銀の需要及び供給／世界の主なる銀市場／金銀比価の変動｜附録45頁；Rules of Exchange Bankers' Association／Regulation of Exchange Brokers' Association／上海銭業公会営業規則／上海金業交易所営業規則

＊「凡例」：「支那全体の為替並に金融事情と上海の夫れとの関係は極めて密接であつて，上海の事情を理解すれば他の天津，漢口，香港等の事情は大部分理解し得たものと謂ひ得る。何となれば金融及び通貨の事情は上海も之等各地も全然同様であると謂つても差支ない程であるし又為替に関して上海は支那全国の中心市場であつて他の市場は性質も事情も相同じく相場は常に上海の相場に追随する事恰も影の形に伴ふ如く，且其の市場の大きさは上海に比して到底同日の論でない程狭少であるから上海の為替事情を解すれば他市場の事は九割以上解し得たと称しても可いからである」。

＊「自序」：「此の書は私が在支満七年間に研究し経験した所を要を摘んで出来得べくば専門家ならぬ一般読者にも解り易い様にと記述したものです。私が銀行〔☆三菱銀行〕業務に従事し為替に携つて居る関係上実務に重きを置き，殊に凡て銀行業者の立場から記述致しましたのは多少偏り過ぎた恨みはありますが理論的の事柄も随処に織込んで記して置きました」。

［参考］：『中支』（上海／経済，産業）：「上海に於ける外国為替及金融／吉田政治／大正14／**446**頁」。

『華中』（金融経済250）

『言語』

52．上海貿易統計（民国十四年）

大阪市役所産業部調査課（大阪）

大正15年６月５日

菊版　27頁

［注］：全頁民国12・13・14年の輸入・輸出統計表。

［参考］：『言語』

53. 上海外国居留地行政概論
［満鉄調査資料第五十五編］

中濱義久

南満洲鉄道株式会社（大連）

大正15年 6 月25日

菊版　208頁

［注 1］：奥付では，「編輯兼発行人」として佐田弘次郎（南満洲鉄道株式会社庶務部調査課）の名のみ記す。

［注 2］:印刷所は，東亜印刷株式会社大連支店（大連市近江町91番地）。

◆［庶務部調査課］凡例 2 頁／目次 4 頁‖緒言／上海共同居留地；沿革／居留地設定の条件／居留地の行政関係／租界に於ける支那人の地位／居留地行政権と各国行政権の関係／土地法関係概説／工部局の行政分科／上海会審公堂／工部局の財政／共同居留地の特色／工部局将来の実権問題／租界行政上より見たる上海事件の結末／参政権問題の進捗／上海佛国専管居留地；沿革／法理的概念／行政関係／警察行政権／居留地自治体の議決並に執行機関／居留地の監督関係／居留地に於ける戦事関係／結言／附録；共同租界土地章程／会審公堂章程／佛租界土地章程

＊「凡例」:「本篇は課員中濱義久その編著に当りしものである。其の完結に付ては東亜同文書院教授**馬場鍬太郎**氏，当社上海事務所職員**高久肇**の指導に待つ所多大である」。

［参考］:『中支』（上海／政治）
『米澤』
『華中』（法制租界問題287）
『言語』

54. 上海年鑑［一九二六年版］

井出照人（三郎）

上海日報社出版部（上海白保羅路第 3 、 4 号）

大正15年11月 3 日

四六版　430（232、46、25、59、7 、61）頁

図版・表・地図

銀 4 弗（金 4 円50銭）　函

［注 1］：井出照人は「編輯兼発行者」。

［注 2］:「発売所」は四海書房（東京）。

◆口絵16頁／［永井柳太郎］序 2 頁／［矢田七太郎（上海総領事）］序 2 頁／［櫻木俊一（南満鉄道株式会社上海支店長，上海共同租界参事会員）］序 4 頁／［井手三郎（上海日報社主）］年鑑発行に就て 3 頁／目次 8 頁‖第一編：支那概観；日米支無電問題／関税特別会議／釐金問題／借款問題／労働問題／外国貿易／第二編：中部支那概観；中支の開港場｜挿図：写真 8 頁／第三編：上海103-212；中部支那に於ける上海の地位／上海発展／上海市街の概況／上海の市政／列国の勢力／郵便／商工業｜挿図：「対日本及関東州輸出入表（1925年度）4 枚・写真 8 頁／第四編213-231；上海及附近の名所旧跡と遊覧地／上海の劇場及活動写真／上海以外の名所舊跡／上海の旅館及料亭／第五編；上海邦人営業別名簿46頁／上海邦人貿易商25頁／支那商店一覧59頁／上海外国商館一覧 7 頁／対支貿易業者職業別名簿（東京・横浜・大阪・神戸）61頁

＊櫻木俊一「序」:「畏友井手三郎氏は老上海人の屈指の一人也。在中将に四十年，半生否な三分の二生を日中両国人の親交の為めに捧げられたる尊敬すべき老紳士なり」。

［参考1］：『中支』（上海／総記）；頁数を「**410頁**」とする。
『華中』（一般案内9）
『言語』

［参考2］：「明治三十六年永島高連なる人，また週刊の邦字紙「上海新報」を発行，翌年第十三号に達した頃経営難に陥つて，当時の印刷所中原定太郎の有に帰し，同年三月名を「上海日報」と改め，日刊新聞となつた。七月同文滬報社に合併せられ，井出三郎がその社長となり，後に波田博氏がこれを継承した」（米沢秀夫「滬上雑記」（『上海史話』畝傍書房，昭和17（1942）年7月10日，p205）

［参考3］：復刻本あり。2002年大空社刊行［上海叢書（全12巻）］の2（未見）。

［参考4］：上掲［上海叢書］内容見本：「上海で二十年余の社歴を有した上海日報社が刊行した本格的な年鑑。当時，邦人居留民は二万人を数え邦文による年鑑発行は時宜をえた画期的事業だった。内容も充実しており，市制，商工業，列国勢力のほか，遊覧や歓楽にいたるまで周到な調査による記録であり便利なガイドブックでもある。後半の二〇〇頁に及ぶ邦人関係の緻密な分類一覧は居留民団の繁栄ぶりの一面をうかがわせる資料だ」。

55. 四十起作品集　荒彫

島津長次郎（四十起）

私刊（上海北四川路豊楽里1074号C）

大正15年11月11日

四六版　476頁　2弗50仙

［注］：印刷者は蘆澤民治（海寧路14号）。

◆自序1頁／目次12頁‖雑文；移りし翌日1-3／蛇3-6／途上10-12／移転15-18／澄子の死18-25／紹興酒25-30／上海の赤い色50-57／日記―紀行文；一週間〔大正元年9月24日～30日〕119-131／消息155-165／感想；我等と上海創刊の辞172-175／小品／創作；上海の犬191-195／長屋の女196-207／行つて入らつしやい208-212／詩；乍浦路にて216-218／糖菓売220-221／呉淞路225-227／江岸にて227／ある日231-233／**上海**244-253／触感259-261・**歌ひ切れぬ上海**269-280／魂の刺280-282／蛙306-307／汗311／多情な夕314-315／乳房315／短歌；公園にて318-319／炮きつく甍331-381；『炮きつく甍』の批評331-343／〔☆「Ⅰ-18」と同内容〕／芥川龍之介氏の病床に捧ぐ382-383／四馬路387-388／上海394／俳句-短詩；芥川氏病床慰籍句会席上〔☆「我鬼（芥川の俳号）」4首，「四十起」6首〕416／碧梧桐先生歓迎句会〔☆「碧梧桐」2首，「四十起」2首〕428／田中貢太郎氏歓迎句会席上〔☆「貢太郎」1首，「四十起」3首〕433／大正十三年以後449-458／第一短詩集465-468；小伝465

＊「第一短詩集」：「小伝：明治四年十月十六日淡路津名郡志築町に生る。年十四才神戸の番頭に誘はれ福原に行き櫻木と言ふ女郎に洗礼を受く。十七歳学を志し二円二十銭を懐中して，東海道を東京に入る。翌年酒を覚ゆ。放浪時代は根室の果まで行き浅間の麓にも寝る。親不孝を尽す。**明治三十三年上海に来る**。いろんな生活の末，鞄に千金丹宝丹をつめ蘇杭州の都市村落を行商して歩く。大正元年著述出版業に従事す。又新聞社にも入り自から発行もした。

十二年書店を開業し一年にてシャツトドア。俳句は四十歳より或る自信を以て進む四十起と号した所以である。然し其自信は大分裏切られた／『第一短詩』は同人大木白鹿桐，尾竹竹坡，加藤郁哉，金子農夫雄，河森一喜，佐藤貝村，西村陽吉，布施政一，三浦十八公の作品と伴に東京素人社より大正十五年二月十六日に出版したるものなり（p 468）」。

56. 最新　上海案内

久保島留吉

私刊（上海梧州路10号上海日々新聞社内）

大正15年

四六版　30頁　図版

［注 1］：久保島留吉は，「著作兼発行人」。

［注 2］：表紙写真の下に「精美製版社」（上海乍浦路共和里）と記されている。

［注 3］：出版月日は不明。

［注 4］：印刷所は，合資会社東方印刷公司。

［注 5］：装丁は輪島忠一。

◆序言・目次 1／上海の歴史 2－3／工部局 3－4／領事館 5／会審衙門 6－7／上海居留民団 7－8／日本人倶楽部 8－9／商業会議所 9－10／上海の学校11-12／上海倶楽部12-13／上海義勇団13-14／交通機関と賃金14-16／通貨16-17／公園17-18／上海の土産物19／日本人墓地19-20／上海の娯楽場20-21／旅館と料理店21-23／上海の競馬23-24／郵便と電信24-25／博物館天文台25-26／寺院と教会26-27／新聞と雑誌27／南京／蘇州／杭州

Ⅱ．上海小冊子（紀要・報告書等）

<1921>

3．財団法人上海日本人倶楽部年度報告書

（自大正九年四月一日至大正十年三月三十一日）

上海日本人倶楽部

大正10年

128×150　15頁

◆総会議事日程／事務報告／会計報告

<1924>

4．上海航路案内

日本郵船株式会社

大正13年 3 月

折本パンフレット　図版・表

［注］：大正13年 3 月は印刷年月。

◆上海へ／日支連絡客船；運賃表と各地発着時間表／遊覧所・関税・旅行上の注意・衛生上の注意・郵便及電信・乗物・旅館・支那楊子江沿岸行・日支周遊券・省社二線連帯旅客及手小荷物運送取扱・上海経由日支片途連絡旅客手荷物運送取扱・海陸連絡｜挿図：写真16枚

<1925>

5．上海工人会は承認すべきか

大阪市役所産業部調査課

大阪市役所産業部（大阪）

大正14年 7 月31日

菊版　7 頁　非売品

◆まえがき１頁‖本文

＊「まえがき」:「本編に於ては先づ工人会の何ものなるやを究め，在支邦人紡績業者の対工人会の態度を述ぶると共に，進んで之が対策について一考して見やう」。

［参考］:『中支』（上海／社会・統計）
『華中』（産業交通労働158）

<1926>

6．上海近傍観光案内

日本郵船株式会社上海支店

（上海北揚子路３号バンド（パレスホテル内））

大正15年12月

折本パンフレット　地図

◆重なの〔★る〕見物場所；上海・蘇州・鎮江・南京・杭州／日支連絡船利用観光旅程及費用概算／汽車時間表／自上海至各駅汽車運賃表／通貨・郵便・電信・関税・土産物・支那料理〔☆上海の代表的な料理店〕／社船碇繋場一覧・上海に於ける重なる旅館／上海市街図・参考書

Ⅲ．上海地図

<1921>

10．咲也新案上海電車線路図

平野健（咲也）

『**上海渡航の栞**』（「Ⅰ-21」）所収。

<1922>

11．最新実測　上海新地図

THE NEW MAP OF SHANGHAI

島津長次郎

日本堂（上海文路227号）

大正11年１月15日

大洋40仙

［注］：出光衛は「著作兼発行者」。
印刷者は中田熊治（大阪）。

<1925>

12．上海地図

至誠堂（上海閔行路85号）

大正14年７月３日

55×79　大洋５角

［注］：杭州・蘇州・南京・長江地図を附す。

Ⅳ．上海関連本

<1921>

◎　支那に於ける欧米人の文化事業

大正10年12月10日

◇再版（「Ⅳ-24」）奥付による。

<1922>

24．支那に於ける欧米人の文化事業

山口　昇

日本堂書店（上海文路227号）

大正11年１月15日再版

菊版　1371頁　図版・表　銀８弗

［注１］:「発行者」は佐原研究室（密勒路６号）。

［注２］: 印刷所は蘆澤印刷所。

［注３］: 架蔵本には，「改正定価金六円」のゴム印が押されている。

［注４］: 版；大正10年12月10日初版

［注５］:大谷是空（光瑞）『**萬年筆**』（日本堂書店，大正11年10月８日，220頁，１円20銭）巻末の「上海日本堂発行新刊名著」では，「菊版**千五百**頁／**銀七弗金八円**」とする。

◆緒言５頁／［日華実業協会］序２頁／目次21頁‖教会／学校；上海に於ける各種学校1064-1077／病院；上海に於ける外国病院1255-1268／其他の公益的施設；上海に於ける公益的施設1324-1362

＊「緒言」:「私の研究を指導し，併せて各種の調査材料等を提供せられたのは，佐原研究室主人たる滬上槎客先生にして，本書か**日華実業協会**の公刊物として社会に提供する事となつたのは，同会幹部諸氏並に友人大谷藤治郎氏等の斡旋に基く処尠なからす」。

＊「序」:「本書は欧米人が支那に於て基督教を中心とした，文化事業を最も明白に記述したるものにて之れに依りて欧米人が如何に久しき時日を費し，如何に多くの犠牲を払ひ，以て漸く今日の地盤を築き上げたるかを知ると同時に，従つて其根底の如何に深く，其枝葉の如何に繁茂して好果を結びつゝあるかを知り得ることが出来る／従来日本は支那に対して経済的には頗る長足の発展をして来た将来も益々発展するに相違ないか，精神的方面に於ては従来甚だ遺憾の点が多い，のみならず今後と雖も頗る気遣はれざるを得ない，所謂日支親善は文化事業に由りて精神的融洽を計るにあらざれば到底望む可からざることである。／本書は支那海関帯弁山口昇氏が上海在任中公務の傍佐原研究室に於て編纂せられしものにして，本協会は上述の趣旨より刻下最も有益なるものと認め之れを公刊したる所以である」。

［参考１］:「支那と日本との関係を説くものは多いが，支那と欧米との関係を研究したるものは甚だ少ない適々あつても大抵は政治外交と言ふやうな問題を喋々する而已に過ない本書は曩に「支那と米国との関係」を著はして真の支那研究者を驚かした山口昇氏が公務の余暇佐原研究室にあつて研鑽多年専ら支那と欧米との文化的交渉を徹底的に書いたものであつて現在支那に於ける欧米人の文化事業の全班を知り吾人の対支研究資料に提供せんとするものである」（杉江房造編『改正増補上海語独案内』（「Ⅰ-27」）巻末「上海日本堂発行書目」，なお同書目では定価を「**金七弗**」とする）。

［参考２］:『華中』（追浦４）

25. 支那在留邦人興信録

長岡笏湖

東方拓殖協会（関東州大連市山県通76号地ノ１　ジャパンタイムス大連支社内）

大正11年11月22日

四六倍版　30円

［注１］: 長岡笏湖は「編輯人」。

［注２］: 発行人は，應部龍右衛門。

［注３］: 印刷所は，満洲日日新聞社（大連市東公

園町17番地）。

◆支那在留邦人興信録<上海漢口>54頁／事業録<上海漢口>39頁

<1923>

26. 中華民国に遊ぶ

乗杉義尚

乗杉事務所（上海西嘉興路徳馨里42号）

大正12年3月1日

140×200　466頁　図版・地図

銀2元6角　カバー

［注1］：乗杉義尚は「著作兼発行者」。

［注2］：印刷所は蘆澤印刷所。

［注3］：「発売所」は日本堂書店。

◆九　上海112-129／十　上海130-135／十一　上海135-147／十二　上海147-155

<1924>

27. 支那各地風俗叢談

井上進（紅梅）

日本堂書店（上海文路227号）

大正13年6月15日

四六版　379頁　図版

銀2弗60仙・金3円

［注1］：発行者は杉江房造。

［注2］：印刷所は蘆澤印刷所。

◆第一章　江蘇省：第二十五節　上海196-252；田家五行／俚謡／女児経／十八鎮の歌／三百六十行／滬上百多談／滬上動物園／年中行事／租界鎖談／宝山県の十日朝／浦東の婚喪

28. 最近　支那の関税と通関手続

上海出版協会調査部

上海出版協会（上海海寧路14号）

大正13年7月23日

菊版　665頁　図版・表・地図

銀4弗50仙

［注1］：上海出版協会調査部は「編纂者」。発行者は久保田武。

［注2］：奥付に「定価金五円也」のゴム印あり。

［注3］：印刷者は蘆澤民治。

［注4］：函なし。

◆序4頁／凡例1頁／目録14頁‖海関；対外交渉の経緯／外人管理制度の基礎／創設の道程と環境の推移／国際的性質及官制上の系統／常関及鑒金局の現状／関税；支那関税改修の経過／外債と関税との関係／外部関税協定の経緯／内部関税の特殊事情／特殊地関税と陸境関税／特殊品関税制度と新工業品／戻税及噸税並河港と改修税；上海の派司制度／塩税担保の実情と関税収入／海関標登記と新商標法の制定／通関；執務時間及度量衡並税率変更；上海碼頭税／船舶書類と貨物置場／船舶の出入港及荷役／内河航行及通航免状／貨物の輸移入と派司；上海港湾特殊の規定／貨物の輸移出と再輸出／貨物の積換及通過並積残貨物の処理／陸揚不足荷及貨物の改装と荷印の変更／鉄道免税及土貨證明書並工場製品の特典／郵便小包紅箱及寧波郵便袋の制度／戻税及保税倉庫／商号の登記と税関待合室の私書函｜挿図：「上海港内区画図」／輸出入税率表

＊「凡例」：「本書は其の編纂に当り内外の著書，新聞，雑誌等を参考とせしもの多く

就中高柳博士著支那関税制度論，上海日本人商業会議所編纂支那関税と其通関手続，内海五郎氏編税率と通関，馬場鍬太郎氏著支那郵便制度，上海日本人商業会議所発行週報，東方通信社調査部編纂華府会議大観，支那陸境関税制度綱領及び“Handbook of Customs Procedure at Shanghai”に頼る所大なり／本書の印刷及び表丁に関しては蘆澤印刷所主蘆澤民治氏より多大の援助を受けたる所にして本書の刊行に際し万腔の謝意を表す」。

［参考］：『華中』（追浦 6）

<1925>

◎　揚子江の富源と需給

大正14年 4 月28日

◇再版（「Ⅳ-29」）奥付による。

29. 揚子江の富源と需給

上海出版協会調査部

上海出版社協会（上海海寧路14号）

大正14年 5 月 5 日再版

菊版　424頁　図版・地図　5 円

［注 1］：上海出版協会調査部は「編著者」。発行者は高松益男。

［注 2］：印刷者は蘆澤民治。

［注 3］：版；大正14年 4 月28日初版

［注 4］：函なし。

◆口絵 2 頁／序 1 頁／発行に就て 1 頁／目次10頁

‖交通；揚子江と経済的発展／汽船航運の発達及現状／船荷径路の変化と運賃の協定／揚子江及支那沿岸運賃並水先案内／流域の都市と船舶の出入：上海港／外海と揚子江航運との連絡／揚子江を中心とする陸上交通／物資；揚子江流域に於ける物資の配給／通過貿易より観たる集散径路／集散の市場と物資の移動：上海・上海と重要輸出入品／生糸野蚕糸及絹織物／獣皮獣骨並骨粉／羽毛人毛獣毛及毛織物／椶櫚麻及麻織物／豆類採油用種子並油類及油粕／米小麦及麦粉／鶏卵凍卵凍製肉類並卵粉／茶漆木材及鉱物／玩具印刷用インク文房具並紙類／竹竹皮傘畳表木炭並葉煙草／薬品酒類砂糖並海産物／綿花綿製品及紡績綿糸／機関；客桟及客商／行家船行並牙行／店舗及報関行／買弁／交易所濫設及整理

＊「発行に就て」：「「揚子江の富源と需給」を編纂上，参考又は資料として，上海日本人商業会議所「週報」，東則正氏編「中部支那経済調査」，馬場鍬太郎氏著「支那経済地理誌」及び「支那の綿業」，同文館発行「経済大辞典」に多大の便宜を得たるを茲に記して以て謹謝す」。

［参考］：『華中』（追補 7）

◎　支那の同業組合と商慣習

大正14年 8 月28日

◇第 5 版（「Ⅳ-30」）奥付による。

30. 支那の同業組合と商慣習

上海出版協会調査部

上海出版協会（上海海寧路14号）

大正14年 9 月15日第 5 版

菊版　433頁　5 円

［注 1］：上海出版協会調査部は「編著者」。発行

者は高松益男。
［注2］：「発兌」は大阪屋號書店（東京）。
［注3］：印刷者は蘆澤民治。
［注4］：版；大正14年8月28日初版／同9月3日再版／同9月7日3版／同9月10日第4版
◆序1頁／発兌に就て1頁／目次10頁‖組合制度；縦断的組合制度の基礎／固有経営法及商業機関の発達／横断的組合制度の中心勢力／特殊組合の設立組織並事業／特殊組合制度の利害得失／同業組合；総商会商会及同業公会／商事公断処の構成と機能／銀行公会の事業と統制；公共準備金制度と上海銀行公会・上海公桟・上海銀行公会章程／銭業公会の職能と実勢力；上海銭業公会章程／金業公会及金銀商の団結；上海金業公会章程・銀楼公会／米雑穀肥料油業者の連絡／一般雑貨同業組合と其の規約／砂糖麦粉鶏鴨及薪炭業者の結合／棉花綿製品及一般織物業組合／醤業碗業典当業並運輸業の連鎖／茶業組合の規約及同業連絡の基準／労働階級の団結と同業組合の体制／商慣習；支那商人の清算期／綿布綿糸及綿花の分散的取引／綿糸棉花の集中的取引及綿布の競売／過度期に於ける土貨の産地買付／支那の労働争議と利権回収運動
［参考］：『華中』（追浦13）：「**井村薫雄**／上海出版協会／**昭和2**」。

◎　支那遊記

大正14年10月20日
◇訂正版（「Ⅳ-33」）奥付による。

◎　一商人の支那乃旅

大正14年11月20日
◇再版（「Ⅳ-31」）奥付による。

31．一商人の支那乃旅

服部源次郎
東光会（東京）
大正14年11月25日再版
四六版　360頁　図版　2円80銭
◆上海187-216／復航259-264

＊「凡例」：「余は今春，朝鮮総督府より露支水産貿易調査の嘱託を受け，単身支那全土を視察した，当時余は此旅行の記事を八十八回に亘つて釜山日報に掲載した，本書は此旅行記に訂正を加へたものである。／余の旅行は三月二日朝鮮党営を振出しに，満洲安東を経て北はハルピンより南は広東に至り，揚子江を上海より漢口まで往復し，上海の大動乱を最後の観光とし六月十四日の帰鮮を以て終る」。

<1926>

32．南国史話

川島元次郎
平凡社（東京）
大正15年5月1日
菊版　368頁　3円20銭
［注1］：編者は，川上元次郎の弟滿川亀太郎。
［注2］：発行者は，下中緑。

◆最初に試みた上海貿易115-166
［参考］：『米澤』（唐国渡海日記）：「文久二年の上海派遣船に長崎から参加した商人の手

記。同人はこのほか「唐国行脚書付写並伺書控」,「会所より御持越之品」,「於上海諸品売買帳」その他上海互市に関する十冊の帳簿を記しており，これ等の資料の内容は，大正十五年平凡社発行，故川島元次郎氏著「南国史話」に紹介されてゐる」。

33. 支那游記

芥川龍之介

改造社（東京）

大正15年５月20日訂正版

四六版　265頁　２円

[注]：版；大正14年10月20日初版

◆上海游記１-86

→昭和２年８月15日19版　函

[参考１]：『言語』；真鍋正宏「芥川龍之介『支那游記』(p156)

[参考２]：再版文庫本あり。芥川龍之介『**支那游記**』[改造文庫]（改造社，昭和14年６月19日，226頁，40銭）と『**上海記・江南游記**』[講談社学術文庫]（講談社，2001年10月10日，243頁，940円，伊藤桂一「解説」)。

34. 貢太郎見聞録

田中貢太郎

大阪毎日新聞社・東京日々新聞社

大正15年12月17日

四六版　597頁　２円80銭函

[注]：「一手発売所」は盛文館書店（大阪)。

◆支那漫遊前記／上海瞥見記365-384／美酒花雕記；上海の酒家385-394

＊「支那漫遊前記」:「そして支那の伝記的作物に筆をつけるやうになつてから，人に聞いても書物で読んでも薄紙を隔てゐるやうではつきり判らない，支那人の生活様式も知りたくなつて，南支那に遊ぶことになつたが，先づ上海に往くことにした。／その上海には私の同郷の知人の久竹次君が住んでゐる。私は先づ其所に旅装を解いてから，上海を中心に蘇州杭州南京を遊ぶつもりである」。

[参考１]：「上海瞥見記」は，田中貢太郎『人情の曲』（教文社，昭和３年６月５日，３円80銭）にも転載されている

[参考２]：再版文庫本あり。田中貢太郎『**貢太郎見聞録**』[中公文庫]（中央公論社，昭和57年６月10日，520円，424頁，[尾崎秀樹]解説)。

[参考３]：『言語』

《追記》

『米澤』と『華中』（歴史地理99）は，那波利貞『**燕呉載筆**』（同文館（東京)，大正14年２月５日，508頁，３円80銭，函）を採るが，同書の上海言及箇所は，「大英欽准亜洲学会271-275」と「徐家匯天文台275-288」の14頁で，「上海関連本」としても採らなかった。なお，『中支』は，同書を（支那一般／紀行）に採っている。

『言語』は，上塚司『**揚子江を中心として**』（織田書店（東京)，大正14年10月12日，830頁，５円80銭，函）を採るが，同書は著者の「満鉄在職中，社命に依り，前後二ヶ年の間，揚子江流域の各省を踏破したる

の紀行随筆」（「凡例」）であり，上海を専らに記録した箇所はない。

又『言語』は，高山英明『**蘇浙游記**』（私刊，大正15年12月25日，130頁，非売品）も採るが，同書の上海言及箇所は「上海瞥見89-102；無軌道電車／永安公司／ダンスホール／競馬場」の14頁で，これも「上海関連本」にも収めなかった。